

馬市

この絵は、「東海道五十三次」の、池鯉鮒
という宿で、馬市の様子が描かれているよ



馬市？



さる吉



戦のための馬や輸送用の馬を売り買ひする野々市の馬市は、室町時代から開かれました。交通・商いの重要な地であった本町地区は、富樫氏が政治を行う守護所が置かれており、長享二年（1488）に馬市が開かれていた記録がみられます。（※1）

その後、野々市での馬市の記録はいったん途絶えますが、江戸時代の終わり頃には、さかんに馬市が開かれています。野々市周辺は田を耕す馬が少なかったため農村が貧しく、改善のために馬市を多く開きました。馬市は、昭和初期頃まで続き、年に一回、全国各地から馬が集められ、馬が売り買ひされました。



江戸時代終わり頃の野々市の馬市は、この郷土資料館から東へ350mのところにある布市神社で開かれていたんだって！



※1 『官地論』（1600年頃成立・著者不明）より、富樫政親の高尾城を包囲した勢力の中に、野々市の馬市に陣をとったという記述がある。